

はるかな尾瀬

—目次—

- 02 特集 尾瀬とツキノワグマ ー共存を目指してー
- 04 尾瀬自然解説ガイドのごあんない
- 05 ビジターセンターへ、ようこそ！
 - ①山の鼻ビジターセンター
 - ②尾瀬沼ビジターセンター
- 06 現地情報
 - ①原をわたる風だより
 - ②おこじょだより
- 08 尾瀬ボランティア情報
- 09 尾瀬のミニ観察《総集編》④
- 10 尾瀬保護財団からのお知らせ



2019.8 vol.40
(公財)尾瀬保護財団



大江湿原のニッコウキスゲ 撮影日：令和元年7月23日

「尾瀬とツキノワグマ」

—共存を目指して—

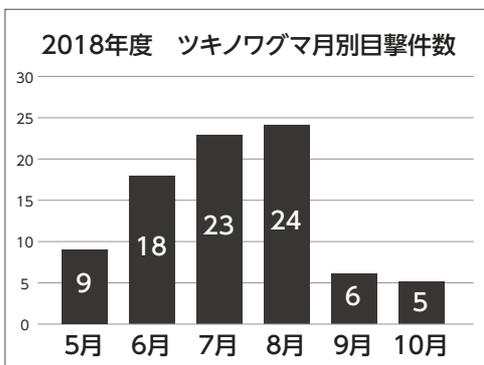
尾瀬にツキノワグマがいると、ご存じですか？

「尾瀬はツキノワグマの生息地です。」窓口でそう答えると、尾瀬を初めて訪れた登山者は大いに驚くことが多い。尾瀬で特にツキノワグマの目撃情報が多くなるのは例年6月～8月の間である。その頃は尾瀬の花々が美しく顔を並べ、夏山開きなど多くのイベントが開催される時期と重なるため、多くの登山客が訪れる。一方、ツキノワグマは繁殖期を迎える。また、餌が少ない夏や冬ごもり前の秋になると、時には人目も気にせず懸命にミズバシヨウの実やドングリなどの堅果類を食べている。

全国各地の人身事故などがニュースになり、ツキノワグマへの関心が高まる中で、時には、弁当の残飯を与えたり、嬉しそうに写真を撮影したと話す登山者もいる。この行為は非常に危なく残念だ。



【2018年7月2日テンマ沢付近にて登山者より提供】



ツキノワグマは私たちの力ではどうすることもできない野生生物である。また、環境省レッドデータリストでは絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）に登録されている。日本で確認されている数は約1万5千頭～2万5千頭と推測され、年間2000頭が有害駆除されているという。前述したように尾瀬はツキノワグマの生息地であり、保護すべき動物である。

ツキノワグマとの事故をどう防ぐか

尾瀬沼、山の鼻ビジターセンターでの勤務歴は合わせて7年となるが、ツキノワグマに出会った回数は数えるほどだ。最も恐ろしかったのは夜間に遭遇した事である。相手も私に気づくのが遅れ、ガウガウと吠えながら大急ぎで逃げていった。毎年、開所前に群馬野生動物事務所の春山氏を講師にツキノワグマ対策の研修を受ける。その際に、体験談を話すと「よく無事でしたね、非常に危険です。」との回答が返ってきた。ちよつと注意を欠いた行動により、ツキノワグマとの事故を招いてしまう。事故を防ぐ最善策は「ツキノワグマに出会わないこと」である。そこで誰でもできる簡単な方法をご紹介します。①熊鈴・熊鐘（警鐘）を鳴らして自分の存在を知らせる。②ツキノワグマは他の野生生物に比べて視力が劣る。そのため、視界の悪い天気（雨・霧など）や視界の悪い場所（林縁・川沿いなど）を歩く時には特に注意する。③視界の悪い時間帯（早朝・夕方など）を歩く時は特に注意する。その他、注意すべき事は数多くあるが、ツキノワグマに出会ってしまった場合の対応を説明する。

①目を合わせない。②騒がない。（大声を出さない）③走って逃げない。（背中を見せて逃げない）

ツキノワグマに出会わないために

- ①熊鈴・熊鐘を鳴らして自分の存在を知らせる。
- ②視界の悪い天気（雨・霧）、場所（林縁・川沿い）を歩くときに注意する。
- ③視界の悪い時間帯（早朝・夕方）を歩くときに注意する。

ツキノワグマに出会ってしまったら

- ①目を合わせない。
- ②騒がない。（声を出さない）
- ③走って逃げない。（背中を見せて逃げない）

てはならない) また、ツキノワグマを挑発するような行為(石を投げるなど)、刺激する行為(写真を撮る、フラッシュをたくなど)は非常に危険である。とても臆病で怖がりな性格だが、自己防衛のために攻撃してくることもある。ツキノワグマと近距離で遭遇した場合は、相手の様子を見ながら目線を合わせないように逃げる。また遠距離であれば、ゆっくり後ろに下がって静かに逃げる。私たちも尾瀬国立公園ツキノワグマ対策委員として登山者への啓発をはじめ、刈り払いや追い払いなどさまざまな取り組みを行っている。詳しくは尾瀬保護財団HPのツキノワグマ対策をご覧ください。

クマ鐘やクマ鈴で 自分の存在を知らせてください!



【クマ鐘】



【クマ鈴】

音に敏感なので「クマ鈴」
「クマ鐘(警鐘)」で不意打ちの
遭遇を防ぐことができます。



ツキノワグマとの共存を目指して

時に「熊は大きな脅威であるのに何故、野放しにしているのだ」という批判もある。確かに尾瀬に生息するものの中で最も強く、我々には到底かなわない脅威だ。しかし、怖いだけではない。尾瀬にとっては欠かせない生物なのである。尾瀬のツキノワグマはミズバショウの実を食べる。全国的にもこのような傾向はなかなか見られないため、非常に珍しいという。ミズバショウの実を食べ

べ、糞をし、そこからミズバショウが発芽する。また、広範囲で移動するため上流部へ運び、ミズバショウの生育域を広げてくれる。また、ドングリなどの堅果も同様で尾瀬の森を育んでくれる。また、生態系の頂点に立つアンブレラ種である事から尾瀬の生態系がいかに豊かかを教えてくれる。昔は狩猟対象となり人々の生活を支えてきたが、時代が変わり、今は人とのつながりが希薄になってきている。



【ツキノワグマとミズバショウ】

私は熊のいない佐渡に生まれ育ったが、日本で野生絶滅してしまったトキのようにいつか、ツキノワグマが同じ道をたどってしまうのではないかと考えると悲しい。尾瀬の自然を守ることはツキノワグマを含め多くの生物を守る事にもつながる筈だ。いつまでも尾瀬の自然を大切にしたいと思います。

(川上 藍)

尾瀬自然解説ガイドの

ごあんない

尾瀬自然解説ガイドとは？

尾瀬自然解説ガイドは、尾瀬の四季それぞれの美しい姿を尾瀬を訪れる多くの人々にわかりやすく紹介し自然やそれを守る取り組みへの理解を深め、貴重な自然により深く触れていただくお手伝いをします。

尾瀬自然解説ガイドは、尾瀬の自然を守るために尾瀬ボランティアとしても様々な活動をしていて、その知識や経験を活かしながら、山の鼻ビジターセンター発着の4コースおよび尾瀬沼ビジターセンター発着の2コースをご案内いたします。

さあ、あなたも尾瀬自然解説ガイドと一緒に、今までとはひと味違う濃厚な尾瀬を体験してみませんか。



△山の鼻ビジターセンター～牛首コース。6月末頃、青々とした山と湿原が美しい、初夏のガイドの様子です。動植物だけでなく、自然保護の取り組みや歴史、文化などについても解説いたします。

2019年度 尾瀬自然解説ガイド事業の実施期間について

5月							6月							7月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
			1	2	3	4						1				1	2	3	4	5	6
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13	
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20	
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27	
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31				
							30														
8月							9月							10月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5	
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26	
25	26	27	28	29	30	31	29	30						27	28	29	30	31			

ガイド実施日の設定にあたって
 ビギナーの皆さま（ガイドを初めて利用する方、尾瀬を初めて訪れる方）にも安全に尾瀬歩きを楽しんでいただくという観点から、実施期間を「5月下旬～10月の三連休前まで」の間で設定しております。（5月半ばまでは残雪が多く、10月中旬以降は降霜と初雪が心配されるため、入山に際しては特に注意が必要となります。）

また、入山の分散化を図る観点から、混雑期（ミズバショウ・ニッコウキスゲ・草紅葉が見頃を迎える時期）の土日祝日は除外させていただきます。

■ : ガイド受付日

コースと料金

コース番号	場 所	片道料金	往復料金
		(所要時間)	(所要時間)
山ノ鼻地区（集合場所：山ノ鼻ビジターセンター）			
山1	山ノ鼻～牛首	800円 (1時間30分)	1,200円 (約3時間)
山2	山ノ鼻～牛首～竜宮	1,000円 (約2時間)	設定なし
山3	山ノ鼻～牛首～ヨッピー橋	1,000円 (約2時間)	設定なし
山4	山ノ鼻～牛首～ヨッピー橋 ～竜宮～牛首～山ノ鼻	設定なし	1,500円 (約4時間30分)
尾瀬沼地区（集合場所：尾瀬沼ビジターセンター）			
沼1	大江湿原一周	500円 (約1時間)	設定なし
沼2	尾瀬沼ビジターセンター ～沼尻(北岸コース)	800円 (約1時間30分)	1,200円 (約3時間)

- ▷ 料金は1人あたりの料金です。旅行傷害保険を含みます。
- ▷ ガイド開始時間は原則として7:30～11:00です。
- ▷ 保護者同伴の小学生以下については無料です。
- ▷ 各コースとも1グループの定員は2名以上10名以内。10名を超える場合は複数のグループとなります。

申込み方法

◆事前予約制です。所定の申込フォーム（※）によりFAX・メール・郵送のいずれかでお申し込みください。

（※）尾瀬保護財団ホームページからダウンロードできます

◆お申し込みはガイド希望日の20日前までをお願いします。なお、手配の都合上ガイドをお受けできない場合もあります。予めご了承ください。

申込先・お問い合わせ先

（公財）尾瀬保護財団

TEL : 0277-2200-4431

FAX : 027-2200-4421

E-mail : guide@oze-fnd.or.jp



尾瀨山の鼻ビジターセンター

鳩待峠から山ノ鼻へ歩いてこられた皆様が最初に目にする建物。それが「尾瀨山の鼻ビジターセンター」です。平成5年に群馬県によつて設置され至仏山の麓、尾瀨ヶ原の入り口（西端）に位置しています。山の鼻ビジターセンターでは皆様に尾瀨ヶ原や至仏山のお花の開花状況や登山道の状況などの情報提供及びルート案内を行っております。尾瀨ヶ原を散策される前にお立ち寄りいただければ事前の情報収集に、帰りに訪れていただければ尾瀨ヶ原で見つけた「不思議」について職員と答え合わせができるかも？しれません。

建物正面入り口から入ると目に飛び込んでくるのは山の鼻ビジターセンターの人気者ツキノワグマの「くまぞう」です。昨年に引き続き、抱きついたり、握手したりしながら多くのお客様に写真を撮っていただいております。是非「くまぞう」をはじめ普段はなかなか触れない動物のはく製に触って、尾瀨に棲む動物たちを身近に感じてみてください。

尾瀨ヶ原、アヤマ平、植物研究見本園、鳩待峠〜山ノ鼻間に分けてお花の開花状況などを紹介しております。職員が日々、尾瀨を歩き情報を更新してまいります。散策時の参考にさせていただきます。

今までなかったミズバシヨウの展示コーナーを新設しました。今年はミズバシヨウをはじめ、その季節だから見られる動植物について掘り下げて展示に反映させていきたいと思います。窓口のカウンターには見頃を迎えているお花についての豆知識や現在の見どころの紹介を掲示しました。尾瀨の自然について興味を持っていただき、より深く楽しんでいただければ幸いです。

ビジターセンター職員がご案内させていただく「朝の自然観察会（土日祝）、環境学習を内容に含めた「ミニガイドツアー」（随時）や宿泊者を対象に「スライドショー」（土日祝前夜18時30分より）も実施しております。皆様がより尾瀨の自然と触れ合える機会となりますように職員それぞれの視点で紹介させていただきます。是非お立ち寄りください。



ビジターセンターへ、ようこそ！



尾瀨沼ビジターセンター

燧ヶ岳の足元、尾瀨沼の東岸にあります「尾瀨沼ビジターセンター」は、昭和59年に環境省によって旧会津沼田街道沿いに設置されました。遙かな尾瀨沼と東北以北最高峰の燧ヶ岳。ニッコウキスゲの美しさで知られる大江湿原。広大な自然に四方を囲まれたビジターセンターです。

さて、利用者の皆様にこれらの自然をより深く知ってもらうため、尾瀨沼ビジターセンターではシーズンを通して様々なイベントや企画展示を実施しております。毎朝9時30分から尾瀨の自然を解説するミニツアーや、毎週末の朝には朝イチ観察会。土日祝日の前夜にはスライドショーを行ったりと尾瀨に来ていただいた皆様にお楽しみいただける企画を用意しています。

さらにビジター内の展示も盛りだくさん！ いろんな動物の毛の感触を実際に触って確かめられる毛皮の展示や、雪に閉ざされた貴重な冬の尾瀨の写真展。尾瀨にゆかりの深い檜枝岐村の歴史や文化、尾瀨とのつながりに迫るパネルなどなど。尾瀨を様々な角度から知ることができ、尾瀨への理解をより一層深められること間違いなしです。

そして、今年は大江湿原の空撮写真を中央に設置しました。そこからうかがえるシカの被害と対策、尾瀨に隠された戊辰戦争の軌跡など、大江湿原の歴史と危機迫る現在をご紹介します。

また、尾瀨沼ビジターセンター限定のDVDの上映も行っています。ビジター職員に声をかけてもらえれば、開館中いつでも好きなビデオが見放題！大画面で紹介される尾瀨の美しい風景は必見ですよ。

尾瀨にお越しの際の情報収集には、尾瀨保護財団ホームページ、インスタグラムや尾瀨沼ビジターセンターのFacebook、Twitterをご覧ください。現地より毎日更新される最新の情報をお届けしております。皆様とお会いできる日を楽しみにしております。



原をわたる風だより 山の鼻ビジターセンターより

2年目のシーズンに向けて

昨年引き続き山の鼻ビジターセンターに勤務することになりました小川です。

5月には無事にビジターセンターも開所いたしました。今年3月以降の積雪で昨年とは違う残雪の上での開所式となりました。

2年目のシーズンとなりますので、訪れる入山者にはできるだけ多くの情報を発信するとともに、安全の確保に努め尾瀬の魅力堪能して頂きたいと思っております。

山の鼻ビジターセンターでお待ちしております。
(小川 浩司)



残雪から緑へ

4月中旬山の鼻VC・公衆トイレ等開設のため上山、今年は春先の降雪もあり残雪が多く大変な作業でした。その頃の尾瀬ヶ原には約1.5〜2mの積雪がありました。

5月下旬 雪解けと大雨が重なり大洪水となり尾瀬ヶ原一面湖状態。木道は一部浸水し一時通行止めとなりました。そのため尾瀬ヶ原の残雪は一気に消えしばらく茶色でした。

6月上旬周辺の樹木は緑に、湿原はミズバショウ・リュウキンカ等見頃を迎え、中旬には植物の新芽が一齐にふき出し緑になってきました。今は例年通り多くの登山者で賑わって来ました。これから尾

瀬に訪れる方は、山岳地域なのでクマの注意はもちろん服装・靴・雨合羽等しっかり準備してお越し下さい。

(笹原 宗利)



5年目の勤務になります

尾瀬ヶ原の山の鼻ビジターセンターでの勤務も今年で5年目になります。この仕事は6カ月弱で終わる季節雇用ですので、通算3年目に入ったところとも言えますね。

振り返ってみれば、4年前に特にたいした大望も無く何の気なしに始めたこの仕事も、そこそこ長く続いているものだと思います。

ここ数年尾瀬ヶ原で勤務していますと、その年々の違いを感じるとともに、今年はどうなるだろうと楽しみでもあります。今年も体調を大きく崩すことなくまた大きな事故を起こすこともなく、シーズンを終えられれば幸いです。

最後に、今年もよろしくお願いします。と挨拶をして締めとさせていただきます。
(菅原 與晴)

「尾瀬」という存在

今年で山の鼻ビジターセンター勤務4

年目。「尾瀬の仕事がしたい」と思っている仕事を始め、思えばいろいろな尾瀬の表情や変化があったな、と感じます。いちばんの変化は自分自身の変化。「尾瀬」という言葉、場所がすぐ身近なものになりました。高校生のときから来ていたはずが、「働く」ことを通ずるといっても尾瀬の様々な顔を見たり、関わっている人々と知り合ったり、たぶん街で働いていたら経験できなかったであろうことを体験させてくれるのか、と感謝で一杯です。ずっとかかわり続けるのは難しいかもしれませんが、これから先も尾瀬とそこに関わる人々と貴重な体験をしていけたらと思います。
(秋原 舞)

2年目の尾瀬

昨年に引き続き、山の鼻ビジターセンターで勤務をさせていただくことになりました。昨年は目に入る景色やお花、全てが初めての出会いで感動の毎日でした。半年ぶりに暮らす尾瀬は昨年とは違った感動があり、今年は昨年出会ったお花と再会するような気持ちでした。季節が進むたびに見られる動植物が増えることも昨年知りました。今年はどうなるか、出会いがあるのか、毎日、楽しみます。そうした発見や出会いの喜びをお客様にも伝えられるように今年も努力していきます。と思います。
(柴崎 恵)

日は好日

令和を迎えた5月の連休明けに着任いたしました。少雪と思われた春の初めに幾度かの名残雪があり、着任当初の尾瀬ヶ原は見渡す限りの銀世界でしたが、この筆を執っている6月半ばにはすっかり雪も融け、その重みから放たれるやあからゆる草木が一齐に萌芽を競う新緑の只中という様相です。尾



瀬に起居をして驚嘆したことは、第一にそのような季節の移ろいの早さでしたが、此処では一年の半分近くを冬が占め、残りの時間を春、夏、秋が駆け巡るわけですから、当然といえば当然のことです。平成を懐かしく都都市部に過ごし、ともすれば周囲に満ち溢れた生命の躍動にも鈍感であった我が身ですが、尾瀬の自然に抱かれて日々生まれ変わる思いがいたします。任期は未だ序盤ですが、尾瀬ヶ原をわたる風に生命の機微を感じつつ、皆様とともに巡る季節を愉しんでゆけたらと思います。
(榎本 隆史)

尾瀬で働く喜び

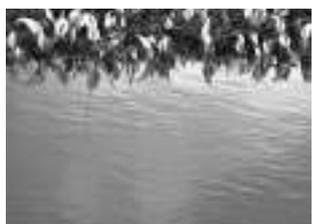
山の鼻ビジターセンター初勤務の坂上です。こちらで働く以前も、何度か尾瀬には来ており、その度に違う景色を見せて貰っていました。

ただ、数回来ただけでは尾瀬の自然を見たり知ったり出来るのは、ほんの一部だけだなど、物足りないと感じておりました。

そんな中で、シーズンを通して尾瀬に住みながら仕事をさせて貰える事が出来、とても嬉しく思います。

季節ごとに咲く花々の名前や特徴。鳥たちの鳴き声。熊や鹿など動物の生態。尾瀬の成り立ちや歴史。

そのひとつひとつをしっかりと学び私の財産にしていき、そして尾瀬に来る皆さんに尾瀬の素晴らしさをレクチャーしていけたらと思います。
(坂上 修司)



おなじよだより 尾瀬沼ビジターセンターより

5月、一面雪で覆われた沼山峠からの道を苦労しながら歩いて尾瀬沼に入ったが、気がつけば、あっという間に8月になってしまった。尾瀬の時間の流れは、町での生活より速いのではないかと思ってしまう。

今年のイベントは、まず職員で話し合いをして、やりたいイベントを企画実施している。なので、私がいかなと思う案の中には却下されたものもある。

今後実施予定のイベントも入れるとオリジナルテーマスライド、尾瀬沼から暑中見舞いを出そう、山の日イベント、ナイトハイク、歩荷さんに聞いてみよう、尾瀬高校生によるレクチャー、星空観察会などたくさんイベントを企画できた。これらのイベントへの参加体験が、尾瀬の素晴らしい自然とともに、皆さんの尾瀬の思い出のひとつになってもらえれば幸いです。

シーズン後半も微力ながら頑張ります。皆さんに尾瀬で会えることを楽しみにしています。
(阪路 善彦)

尾瀬沼ビジターセンター2年目の中馬(ちま)です。今年の入山時は雪が多かったですが、5月下旬の雪解け後にいろいろな花々が次々とあつという間に咲き続け夏がやってきました。先日燧ヶ岳山頂から御池に初めて下りてみました。途中熊沢田代、広沢田代と広々とした湿原を堪能しました。尾瀬は広く、行っていない場所もまだありますので、今年はおう1箇所くらい未知の歩道に挑戦したいと思います。
(中馬 慎一)



「初春の令月にして 気淑く風和らぎ」と万葉集の一句を思い出す今日この頃、尾瀬もまた新しい時代を迎え、私も尾瀬での仕事を携わって7年目となります。7年前の自分を思い出しながら、初心を忘れずに今年度も業務に励んでゆきたいと思えます。私にとつての尾瀬での生活の日々はもうひとつの郷に帰るような心地で、多くの人々の温かなご声援や協力を頂き、誠に感謝の気持ちでいっぱいになります。どうか、「令和」を迎えた美しい尾瀬を末永くよろしくお願ひ致します。
(川上 藍)

ダケカンバの新緑、ニッコウキスゲの山吹色、エゾリンドウの紫、ナナカマドの赤、色が季節の変化を教えてくれる場所。尾瀬は多くの人の努力で自然が守られてきました。この尾瀬を訪れるためには必ず山道を歩き峠を越えてくる必要があり。不便ですが、自然の豊かさを感ずるために欠かせないことのように思えます。朝霧の動きをたどり、夕焼けの色の变化を眺め、イワツバメが子育てに励むのを見守るゆつたりした時間が最高だよと多くの人に知って欲しいのです。自然との出会いで心を豊かにできるように、そのお手伝いのために微力を尽くしたいと思えます。
(加藤 樹)

尾瀬沼ビジターセンター2年目、大澤未奈です。今年は去年と比べて雪融けが遅く、初めての一面雪景色の尾瀬の美しさにうっとりしました。これからどんな新しい尾瀬の一面が見られるか、そしてその良さをどう伝えていこうか、しっかりと向き合っていきたいと思えます。また山登りが好きなので、尾瀬の去年登れなかった山や、歩けなかったコースを歩くのが楽しみです。尾瀬沼にいらした方たちには色々な情報を発信できるように頑張ります！
(大澤 未奈)



大きなザックに生活必需品を詰め、まだ雪深い峠を越えた時に微かに望んだ尾瀬沼……

「いよいよ始まる」今まで漠然と抱いていた尾瀬での仕事、そして生活が現実的なものとなりました。雪解けの湿原と純白のミズバショウ、霧たつ尾瀬沼と白虹、夏鳥のさえずりに目覚める朝、そして、紅葉と針葉樹の絶妙のコントラスト、四季折々の尾瀬の魅力を語るには枚挙に暇がありません。

新たな発見と感動の連続、尾瀬での生活は毎日そんな得難い体験の繰り返しですが、尾瀬にお越しになる方々にもそんな感動を少しでも体感していただけるようお手伝いをさせていただきます。

はるかな尾瀬、おなじよ
今日も素敵な尾瀬の時間が始まりです。
(松田 幸弘)

尾瀬に来てびっくりしたことの一つに花が小さいということがあります。例えば、シヨウシヨウバカマは、私の地元では春先に近くの山で普通に見ることができるとは、尾瀬では見過ごしそうなほど小さくてかわいい。尾瀬の厳しい環境では、それに適応したものだけが生き残る、ということでしょうか。尾瀬に起こしの際は、ぜひビジターセンターに立ち寄っていただき、いま咲いている花の情報などを仕入れてから歩きだすと、尾瀬歩きがさらに楽しくなることだと思います。そんなお手伝いができれば嬉しいですね。
(米山 英介)

今年初めて尾瀬沼ビジターセンターで勤務することになりました。5月に雪の中で、ビジターまで歩いたことも、山の中で生活することも初めてのことはかりで、てんやわんやの毎日を過ごしています。

大好きな動物を身近に感じるとともに、四季と草木の移り変わりをじっくりと自分の目で確かめられるこのビジターで知ったことを、この感動を、多くの人に伝えられたら良いなあと思えます。どうぞいらしたときは気軽に声をかけください。まずはこの一年間よろしくお願ひします。
(石川 知怜)



尾瀬ポランテア情報

このコーナーでは尾瀬ポランテアの活動の様子を紹介します。

「外来植物の駆除作業」を行いました

当財団では、関係機関等の御協力のもと、近年登山口周辺での生育が懸念されている「ハルザキヤマガラシ」と、外来生物法で特定外来生物に指定されている「オオハングソウ」の2品種を対象に、水際での侵入予防対策の一つとして登山口周辺における駆除活動を実施しています。

ハルザキヤマガラシは、例年同様、生育が確認されている群馬県側入山口の鳩待峠から津奈木間の県道沿いにおいて、5月26日(日)に、計3名の尾瀬ポランテアをはじめ多くの方々にご参加いただきました。

一方のオオハングソウの駆除は、6月15日(土)に群馬県側入山口の富士見下付近と、6月29日(土)に福島県側の檜枝岐村小沢平登山口付近において、延べ7名の尾瀬ポランテアの方々に御参加いただきました。

なお、昨年度から尾瀬ポランテアの皆様や関係機関のほか、企業ポランテアの皆様や地元で自然保護活動に取り組まれている皆様の御協力も仰ぎながら実施しています。

ハルザキヤマガラシについてはその勢いに陰りが見られるのですが、残念ながらオオハングソウはまだまだ健在です。来年度以降も皆様御協力をいただきますながら、駆除作業を続けていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



「至仏山東面登山道柵立て」を行いました

6月22日(土)、5名の尾瀬ポランテアの方々に御参加いただき、怪しい雲行きの中ではありましたが、からくも雨に見舞われず山ノ鼻登山口から高天ヶ原上部までの東面登山道に踏み込み防止柵の設置を行いました。

この作業は、植生保護のため、登山者による登山道以外への踏み込みを防止することを目的とし、群馬県から当財団への委託事業として、毎年至仏山の山開き前に実施しています。10月には、今回設置した柵を倒す作業を予定しておりますので、皆様の御協力をお願いいたします。



「大江湿原シカ柵設置作業」を行いました

ニホンジカの食害からニッコウキスゲ等の植生を保護するため、林野庁関東森林管理局は平成26年から大江湿原でのシカ柵設置作業を行っており、昨年度に引き続き尾瀬ポランテアの皆さんの協力を得て実施しました。

今年度は、6月8日(土)に4名の尾瀬ポランテアの方々や(株)明治の皆さん、群馬トヨペット(株)の皆さんと総勢90名で力を合わせ、まだ雪が残る中、総長1kmの防鹿柵をあとという間に設置することができました。

大江湿原のニッコウキスゲを守る防鹿柵の設置には、より多くの方の御協力が必要です。10月にかけて、今回設置した柵を倒す作業が予定されておりま



すので、一層多くの皆様の御参加をお待ちしております。

「尾瀬ポランテア講座」と「尾瀬自然解説ガイド研修会」を並行開催しました

6月22日(土)～23日(日)に山ノ鼻地区において、新たに尾瀬ポランテアへの登録を希望する方の研修である尾瀬ポランテア講座を開催し、新規登録予定者のほか、群馬県が実施している「ぐんま環境学校(エコカレッジ)」からの参加者を含む総勢27名が参加しました。

今年度は初の試みとして、新人ポランテアの知識向上と尾瀬自然解説ガイドのより実践的な研修の実施を目的に、尾瀬ポランテア講座と尾瀬自然解説ガイド研修会を並行開催しました。尾瀬自然解説ガイドは尾瀬ポランテアで構成され、この研修会は、ガイド同士やお客役のポランテアがガイドイングを評価し合い、ガイド相互のレベルアップを図るために毎年実施しています。今回お客役で参加した講座受講生やポランテアの皆さんが、自然解説ガイドの解説に熱心に耳を傾ける姿がとても印象的でした。

今年度は22名の尾瀬ポランテアが新規登録となりました。先輩ポランテアの皆様、どうぞよろしくお願いたしました。



このように、尾瀬ポランテアの皆様のご協力の下、尾瀬の自然環境の保全に向けて様々な活動を行っています。興味を持たれましたら是非、当財団までご連絡ください！

＊ 尾瀬のミニ観察 ＊ 《総集編》④

平成30年4月6日発行の第36号で惜しまれつつも最終回を迎えたフラワーエコロジストの田中肇さんによる人気コラム「尾瀬のミニ観察」。今回は総集編の第4回をお送りします。

＊ コオニユリの雄しべ

夏、湿原でコオニユリのオレンジ色の花が咲くと、キアゲハが訪れて蜜を吸い花粉を運ぶ。

雄しべは、ゆるい曲線を描いて花の下にのび出た花糸の先に、濃いオレンジ色の花粉を出す葯をT字形つけている。その葯はゆらゆらと揺れやすく、電気掃除機の吸い込み口のような。掃除機の吸い込み口が床に平らに接するのと同様に、葯はチョウの羽が触れたとき、ピタッと羽に接して、粘りの強い花粉をつける。私は「これはチョウ汚し機だ」と言っている尾瀬ヶ原が最も美しいのは雨の日だ。そして植物たちは晴れた日とは違う振る舞いを見せてくれる。

第13回 vol.17 (2011.6) 掲載



＊ ヒメシャクナゲ (花期:6月~7月)

花はなぜ下向きに咲くのか。主な理由は二つある。

1. 蜜や花粉を雨から守るため。雨にあうと、蜜は流され、花粉は破裂して役立たなくなる。でも下向きなら、雨は降りこまないから。

2. チョウやハナアブの仲間を排除するため。チョウは口が細く雄しべ雌しべに触れずに蜜を吸う。アブは花間の移動頻度が低い。ともに迷惑な昆虫だが、下向きの花に止まるのが苦手なので、受粉効率のよいハナバチに多くの蜜が提供でき、受粉してもらえるのだ。

第14回 vol.18 (2011.8) 掲載



＊ ミズバショウの花に来る昆虫は？

花が満開のミズバショウの群落には、甘く穏やかな香りが満ちている。

この花の花粉を媒介する昆虫との最初の出会いは、テレビの撮影で訪れた福島県の湿原だった。花の姿と香りからの期待に反し、それはハエの仲間だった。その後、尾瀬で調査したさいも、花にくるのはハエだった。およそ50個の花序に1匹の割で見られたが、ハエは蜜も何も無い緑色の花被をなめていた。そこに何が有るのか不明のままなので、明らかにすれば新発見になるはずだ。

第15回 vol.19 (2011.10) 掲載



＊ アケボノソウ (花期:8月~9月)

アケボノソウの名は花びら(花冠裂片)の模様由来するという。紫色の斑点を星、緑色の楕円を月に見立て、曙の空を連想したのだ。でも、月が2つということは火星の空かな〜、などと考えている。

月は蜜腺だが、アリでは雄しべ雌しべの先端には触れず、蜜はなめられ損だ。花粉を媒介するのはハナアブやシマハナアブで、雄しべ雌しべをまたぐように止まり、口を伸ばして蜜をなめる。そのときアブは運んできた花粉を雌しべにつけ、雄しべは花粉をアブの腹面につける。

第16回 vol.20 (2012.2) 掲載



(フラワーエコロジスト 田中 肇)

寄付のお願い

—尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております—

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行い、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

■ 所得税、法人税、個人県民税、個人市町村民税について

尾瀬保護財団へ寄付をすると優遇措置が受けられます。詳しくは、当財団ホームページをご確認ください。

※所得税、法人税の詳細については最寄りの税務署に、県民税、市町村民税については、お住まいの都道府県、市町村にお問い合わせください。

■ 特別協賛寄付・協賛寄付について

企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度を設けています。

■ 寄付の方法

当財団へご寄付いただく場合は、財団事務局へご来訪いただくか、ご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。振込手数料は寄付者のご負担となりますのでご了承ください。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

詳細は財団事務局（☎027-220-4431）にお問い合わせください。

株式会社とりせん様による寄付受納式が行われました。



5月22日（水）群馬県庁にて、株式会社とりせん様による尾瀬保護財団への寄付受納式が行われました。

とりせん様からのご寄付は8回目となりますが、今年度は、同社創立70周年を記念して社員の皆様が募金していただいた募金額82万円余りをいただきました。

とりせん様では、例年社員研修で尾瀬に入山され、自主清掃活動にも取り組まれており、企業全体で美しい尾瀬の自然環境保護活動に貢献されております。

特別協賛寄付者のご紹介

※7月31日現在、五十音順、敬称略

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
通算寄付額 1,396,790 円



顧客と時代のニーズを追い求めて…

糸井商事株式会社

糸井商事株式会社
通算寄付額 3,600,000 円



環境貢献企業

エコ計画

日頃のご愛顧に感謝致します
皆様にご育てられてまもなく50周年

50th
Anniversary

株式会社エコ計画 通算寄付額
3,000,000 円

群馬トヨペット

群馬トヨペット株式会社
通算寄付額 900,000 円

SAVE ON

株式会社セーブオン
通算寄付額 8,308,103 円

ウォーム・マネー
WARM の MONEY
福島銀行

株式会社福島銀行 通算寄付額 57,882,056 円

Beisia

株式会社ベイシア 通算寄付額 1,800,000 円



Minakami Kogen
Hotel 200

水上高原ホテル 200(水上高原リゾート株式会社)
通算寄付額 1,740,000 円

尾瀬紀行

尾瀬紀行(信託ファンド)で収受した信託報酬の一部として総額381万円余りをご寄付いただきました。平成19年より今回が13回目のご寄付となります。通算寄付総額 72,397,090 円



Asset
Management
One

アセットマネジメント One 株式会社
通算寄付額 36,198,545 円

meiji

株式会社明治 通算寄付額 2,400,000 円

群馬銀行

株式会社群馬銀行 通算寄付額 34,087,942 円



第四銀行

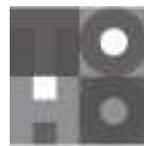
株式会社第四銀行 通算寄付額 6,792,388 円



第四証券

Daishi Securities

第四証券株式会社 通算寄付額 1,852,385 円



すべてを地域のために
東邦銀行

株式会社東邦銀行 通算寄付額 12,760,067 円

協賛寄付者様のご紹介

※7月31日現在、五十音順、敬称略

一般財団法人群馬県警察厚生会

通算寄付額 900,000 円

群馬県ビルメンテナンス協同組合

通算寄付額 1,900,000 円



とりせん

株式会社とりせん 通算寄付額 2,478,562 円

NICHINEN

株式会社ニチネン 通算寄付額 1,300,000 円

その他の寄付者のご紹介

※平成31年2月1日～令和元年7月31日までの寄付者、五十音順、敬称略

板橋勇人、伊藤雅夫、遠藤孝男、(株)尾瀬岩鞍リゾート、小花光雄、(株)クオカード、ぐんぎん証券(株)、KDDI(株)、国権酒造(株)、松田直也、三輪和夫(故山野文行君友人有志一同代表)、割田甚一

表紙の風景 ▶▶▶

7月20日過ぎに見頃を迎えた大江湿原のニッコウキスゲ。梅雨が明け、この光景が見られる季節になると本格的な夏シーズン到来の予感がしてきますね。

梅雨が長引き、好天に恵まれない日が多かった7月でしたが、みなさんはどのような景色で彩られたでしょうか。



撮影日：令和元年7月23日

イベント情報

第23回NHK「わたしの尾瀬」写真展

《入場無料》

福島展

- 期間 10月16日(水)～10月30日(水) 午前9時～午後9時
- 会場 福島市アクティブシニアセンター アオウゼ (福島県福島市曾根田町1-18 MAXふくしま4階) TEL:024-533-2344

※予定は変更になる場合があります



第23回風景の部金賞「眩い初夏」飯塚春雄氏

第24回NHK「わたしの尾瀬」フォトコンテスト作品募集中！ 応募締め切り：2019年10月31日(木) 必着

https://www.nhk.or.jp/maebashi/oze/boshu_24.pdf



尾瀬公式インスタグラムを開設しました。本アカウントでは、尾瀬国立公園と周辺地域の多様な魅力を不定期でお届けしております。

アカウント名：Oze Official Instagram

ユーザー名：@discoveroze

URL： <https://instagram.com/discoveroze?igshid=xkszwmb3vmrn>

『友の会』コーナー

—「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。—

※加入・更新時期は年4回(5月・8月・11月・2月)です。

※11月1日からの加入・更新をご希望の方は9月30日までに会費の納入をお願いします。

《年会費》

個人	個人会員	1口 2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口 1,500円
	ユース会員 (加入又は更新時に満22歳以下)	1口 1,500円
	賛助会員 (団体・企業等)	1口 10,000円
	特別会員 (企業等)	3年に渡る30万円以上の寄付または1回100万円以上の寄付

《特典について》

友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただきます。

- 友の会会員バッチ進呈(初回加入時のみ)、各種資料送付
- 財団機関誌：郵送にてお配りします
- 宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引(休日、祝祭日前等の除外日があります。)
- 尾瀬周辺施設利用料金割引：対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。
<https://www.oze-fnd.or.jp>

編集後記

令和最初の「はるかな尾瀬」をお届けします。今年度も尾瀬の多様な魅力を様々な形で発信していきますのでよろしくお願いいたします。

シーズンもあっという間に夏となっていることと思いますが、現時点(7月中旬)ではまだまだ長い梅雨のさなかで湿っぽい空気に包まれています。早く眩しい太陽と青空の下で散策したいですね。(塚越)



OZE Mobile ●緊急情報 ●お知らせ ●ライブ映像 など
スマートフォンサイト情報配信中

Twitter @oze_info

尾瀬情報配信中
尾瀬の情報を随時発信します

